

平成28年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月6日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ホーブ

コード番号 1382 URL <http://www.hob.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 政場 秀

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長

(氏名) 吉田 周史

TEL 0166-83-3555

四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第1四半期の連結業績(平成27年7月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第1四半期	717	△14.7	△69	—	△65	—	△54	—
27年6月期第1四半期	841	3.2	△68	—	△67	—	△43	—

(注) 包括利益 28年6月期第1四半期 △54百万円 (—%) 27年6月期第1四半期 △43百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年6月期第1四半期	△70.87	—
27年6月期第1四半期	△57.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
28年6月期第1四半期	1,262	—	925	—	73.3	1,214.56
27年6月期	1,310	—	991	—	75.6	1,300.74

(参考) 自己資本 28年6月期第1四半期 925百万円 27年6月期 991百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
27年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00
28年6月期	—	—	—	—	—
28年6月期(予想)	—	0.00	—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年6月期の連結業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,033	1.6	136	231.7	136	219.8	82	215.1	108.38
通期	5,083	△1.5	104	209.7	105	169.4	65	167.0	85.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料3ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年6月期1Q	762,000 株	27年6月期	762,000 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

28年6月期1Q	75 株	27年6月期	75 株
----------	------	--------	------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年6月期1Q	761,925 株	27年6月期1Q	761,925 株
----------	-----------	----------	-----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビューは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策を背景に緩やかな回復傾向が見られました。一方で、中国経済をはじめとした海外景気の下振れによる国内景気への影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、自社いちご品種「ペチカプライム」「ペチカサンタ」を中心に、業務用いちご果実及びその他青果物の販売拡大に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高717,540千円(前年同期比14.7%減少)、営業損失69,961千円(前年同期は営業損失68,478千円)、経常損失65,003千円(前年同期は経常損失67,464千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失54,001千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失43,718千円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(いちご果実・青果事業)

いちご果実・青果事業は、当社と株式会社ホープ21が行っております。第1四半期連結累計期間のいちご果実は、主に自社品種と輸入いちごを併用した販売を行っております。主力となる自社品種は、7月からの出荷量増加を想定し、輸入いちごより自社品種を優先的に販売することに重点をおき推進してまいりました。

自社品種の出荷は7月下旬から想定を上回る量で推移し、8月中旬以降は一転して極端な落ち込みとなったことで、収益に繋げる販売には至りませんでした。

輸入いちごについては、前年同期に比べ、円安による仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁したことで利益率は改善されましたが、販売数量は自社品種を優先的に販売したため減少することとなりました。

その他の青果物については、取引先のアイテム縮小などにより取扱量が減少することとなりました。

この結果、いちご果実・青果事業の売上高は573,191千円(前年同期比17.0%減少)、営業損失は17,106千円(前年同期は営業損失9,596千円)となりました。

(種苗事業)

種苗事業は、自社いちご品種の「ペチカプライム」「ペチカサンタ」を中心に種苗の生産販売を行っております。栽培方法には、秋に苗を定植し翌年から果実を生産する秋定植と、春に苗を定植し果実を生産する春定植の概ね2体系があります。当第1四半期連結累計期間におきましては、秋定植用苗を販売しております。

前年同期と比べて、新たに秋定植を始める生産者がいたものの、全体としては高齢化による栽培休止や規模縮小の影響により、苗販売数量は約17%の減少となりました。種苗生産の原価抑制に努めたことから、利益は前年同期を上回りました。

この結果、種苗事業の売上高は7,642千円(前年同期比16.9%減少)、営業利益は2,506千円(前年同期比108.5%増加)となりました。

(馬鈴薯事業)

馬鈴薯事業は、株式会社ジャパンポテトが行っております。主に種馬鈴薯の生産販売、仕入販売と、青果馬鈴薯の仕入販売からなり、主要売上品である種馬鈴薯には、秋から春にかけて販売する春作と夏に販売する秋作の2体系がありますが、そのメインは春作種馬鈴薯です。当第1四半期連結累計期間は、主に秋作種馬鈴薯販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間は、種馬鈴薯販売において、九州産の供給が不足する中、青森県産の販売が好調であったため、売上、利益とも前年同期を上回ることができました。しかし、青果馬鈴薯の販売においては、春先からの品不足のため、販売数量を確保することができませんでした。

この結果、馬鈴薯事業の売上高は118,222千円(前年同期比5.0%減少)、営業損失は4,040千円(前年同期は営業損失7,336千円)となりました。

(運送事業)

運送事業は、株式会社エス・ロジスティックスが行っております。関東圏を中心とした事業展開で、当社の商品配送を中核とし、一般荷主への配送業務受託に向けた営業を強化してまいりました。また、自社配送原価を抑制するとともに、提携業者並びに共同配送業者を効率的かつ積極的に運用することで、収益の確保に努めてまいりました。

この結果、運送事業の売上高は18,484千円(前年同期比10.8%増加) 営業損失は545千円(前年同期は営業損失696千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比較して45,243千円減少し、当第1四半期連結会計期間末で957,241千円となりました。これはたな卸資産が増加したものの売掛金が減少したことが主因であります。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末と比較して2,861千円減少し、当第1四半期連結会計期間末で305,565千円となりました。これは投資その他資産が増加したものの有形固定資産及び無形固定資産が減少したことによるものであります。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比較して14,807千円増加し、当第1四半期連結会計期間末で217,745千円となりました。これは未払法人税等が減少したものの、買掛金及び賞与引当金が増加したことが主因であります。

(固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末と比較して2,746千円増加し、当第1四半期連結会計期間末で119,655千円となりました。これは役員退職慰労引当金が増加したことが主因であります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末と比較して65,658千円減少し、925,406千円となりました。なお、自己資本比率は前連結会計年度末の75.6%から73.3%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年8月7日の「平成27年6月期決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	455,813	445,123
売掛金	367,867	328,079
たな卸資産	52,018	81,904
未収還付法人税等	14,004	3,531
その他	117,199	98,789
貸倒引当金	△4,418	△187
流動資産合計	1,002,484	957,241
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	116,462	114,566
機械装置及び運搬具(純額)	47,623	45,967
土地	70,111	70,111
その他(純額)	1,664	1,523
有形固定資産合計	235,862	232,169
無形固定資産		
のれん	23,743	23,045
その他	3,465	2,894
無形固定資産合計	27,208	25,939
投資その他の資産		
その他	46,349	48,450
貸倒引当金	△993	△993
投資その他の資産合計	45,355	47,456
固定資産合計	308,427	305,565
資産合計	1,310,911	1,262,807
負債の部		
流動負債		
買掛金	114,462	137,442
未払法人税等	15,160	877
賞与引当金	1,397	10,915
その他	71,917	68,510
流動負債合計	202,938	217,745
固定負債		
退職給付に係る負債	38,265	39,658
役員退職慰労引当金	75,690	77,032
その他	2,952	2,964
固定負債合計	116,908	119,655
負債合計	319,846	337,400

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	421,250	421,250
資本剰余金	432,250	432,250
利益剰余金	137,397	71,966
自己株式	△90	△90
株主資本合計	990,807	925,376
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	258	29
その他の包括利益累計額合計	258	29
純資産合計	991,065	925,406
負債純資産合計	1,310,911	1,262,807

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
売上高	841,103	717,540
売上原価	695,494	574,957
売上総利益	145,608	142,583
販売費及び一般管理費	214,086	212,544
営業損失(△)	△68,478	△69,961
営業外収益		
受取利息	396	352
貸倒引当金戻入額	—	4,230
その他	628	374
営業外収益合計	1,024	4,958
営業外費用		
支払利息	10	—
その他	—	0
営業外費用合計	10	0
経常損失(△)	△67,464	△65,003
特別利益		
固定資産売却益	1	—
特別利益合計	1	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△67,462	△65,003
法人税等	△23,744	△11,001
四半期純損失(△)	△43,718	△54,001
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△43,718	△54,001

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
四半期純損失(△)	△43,718	△54,001
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16	△228
その他の包括利益合計	16	△228
四半期包括利益	△43,701	△54,229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△43,701	△54,229
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	いちご果 実・青果事 業	種苗事業	馬鈴薯事業	運送事業			
売上高							
外部顧客への売上高	690,807	9,195	124,411	16,688	841,103	—	841,103
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	40,175	40,175	△40,175	—
計	690,807	9,195	124,411	56,864	881,278	△40,175	841,103
セグメント利益又は損失 (△)	△9,596	1,202	△7,336	△696	△16,425	△52,052	△68,478

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△52,052千円には、セグメント間取引消去1,196千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△53,248千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	いちご果 実・青果事 業	種苗事業	馬鈴薯事業	運送事業			
売上高							
外部顧客への売上高	573,191	7,642	118,222	18,484	717,540	—	717,540
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	36,307	36,307	△36,307	—
計	573,191	7,642	118,222	54,792	753,847	△36,307	717,540
セグメント利益又は損失 (△)	△17,106	2,506	△4,040	△545	△19,185	△50,775	△69,961

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△50,775千円には、セグメント間取引消去253千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△51,028千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。